

特別企画 コロナ禍で変わった？進んだ！

～コロナに負けるな！新生活様式を取り入れていこう！～

新型コロナウイルスの影響で、仕事も生活も大きく様変わりしました。(公財)ふくい女性財団では、感染症防止対策を講じながらも、できるだけこれまで通りの事業展開を図るために、オンラインで様々な試みを行っています。

今回は、「県内企業のテレワークの動向」と「オンラインを使った財団の活動」を紹介します。

福井県内のテレワークの動向

働き方改革でテレワークの導入を先進的に試みていた、福井キャノン事務機(株)の松本千恵さん(県グッドジョブ女性表彰受賞)にお話を伺いました。



新型コロナ感染拡大により「テレワーク」が急速に進んだというのは周知の事かと思えます。県内では、大企業ほど導入が進んでいるように思いますが、中小企業では「従来の仕事の進め方から抜けきれない」といった声が多く、「テレワーク」の導入率はまだまだ低いのが現状です。パソコンを操作して何かをするといったお仕事であれば、段階的に「テレワーク」に移行することは可能ですが、ただ、そのためには、仕事の棚卸が必要で、すぐに移行できるものではありません。ITの環境を整える他にも、社内の就業環境や制度を見直していく必要があります。「FAXでの業務が多い」「台帳を見ながらの業務がある」等、「紙文書」から「電子化(ペーパーレス)」にシフトすることが解決のキーとなります。

コロナ禍になってから「テレワーク」が急に取り上げられました。平成30年に成立した「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」が、きっかけでもあることをご存知でしょうか？少子高齢化のなかで、一億総活躍社会を目指すには、女性の活躍なくしては実現しません。女性が特に家庭で負担を担う育児や介護について、何とか両立しながら働いてもらうためには、新たな働き方

が「会社から離れた場所で(tele)働く(work)」が必要だとされ、政府の働き方改革に組み入れられました。

当社では、生産性を高めるため新たな制度づくりに積極的に取り組んでいます。働き方改革が上げられる前の約15年前から、システム開発(SE)の女性が、子育てと介護との両立のために在宅ワークを希望したことから始まったのですが、実際、子育てと介護と両立しながらの在宅ワークは、「通勤時間の削減から、時間が有効的に活用できるようになった」「集中して業務ができるため、生産性が向上した」という効果をもたらしました。こうした事例もあり、営業・サービス職でもモバイル端末を持ち、社外や自宅でも仕事ができるような環境を構築し、「モバイルワーク」を推進してまいりました。そのため、コロナ禍になり「テレワーク」へ抵抗なく切り替えることもできました。さらに、自社での取り組みをもとに、ソリューション企業としてお客様に提案しております。私もテレワークを活用し、会社へ戻ることなく、近くのカフェでパソコンを広げ会社のシステムに入力し作業を完了するなどし、お客さまへのレスポンス向上につながる「新たな働き方」を実践しています。

(公財)ふくい女性財団の取り組み

ZOOMを使ったオンライン会議体験セミナー(指導者養成講座)

会場内に模擬オンライン会議の場を設定し、会議の招待メールからオンラインの会議の場に入場し、画面上で会議に参加していただきました。自分だけでなく他の人の行程を会場内で共有することと、講師の(株)カウベル・コーポレーション 森川徹志氏から、オンライン会議の概要を現状に沿って説明を受けました。

参加者からは、「実際にパソコンを使っての体験で分かりやすかった」「オンライン会議について分かりやすい説明で『ZOOM』の意味を理解した」「実際にオンラインで会議してみたい」などの声があり、今後も続く新型コロナウイルスの影響下においても、前に進んでいく意識を持たれたようです。



オンライン相談の実施

ZOOMを利用したオンラインによる『女性キャリア相談』『就職相談・職業紹介』『保育所・子育て相談』等の対面相談も実施しています(要予約・1回45分程度)

ソーシャルメディアの充実

幅広い年代に女性財団をPRするSNS(ソーシャルメディア)ツールとして、これまでのFacebookに加え、TwitterとYouTubeの公式アカウントを開設しました。



Twitter



YouTube



かがやく女性

第49号

発行者
(公財)ふくい女性財団
〒918-8135
福井市下穴条町14-1
ユー・アイふくい
(福井県生活学習館2階)